

施設紹介（後期研修プログラム紹介）

医療法人社団 カレスアライアンス・北海道家庭医療学センター と家庭医療学専門医コースのご紹介

山田 康介

医療法人社団 カレス アライアンス・北海道家庭医療学センター 家庭医療推進室室長

草場 鉄周

医療法人社団 カレス アライアンス・北海道家庭医療学センター 所長

1. 北海道家庭医療学センターの歴史

北海道家庭医療学センター（the Hokkaido Centre for Family Medicine; 以下HCFMと略す）は1996年、家庭医療（学）の診療，教育，研究の推進を目的として、北海道室蘭市にある医療法人社団 カレスアライアンスに開設されました。

当時国内では「家庭医療（学）」と名の付く部門を有する施設は初めて、家庭医療学専門医を育てるための研修プログラムに関しても初めての試みということもあり、注目を浴びました。

開設当初は葛西龍樹初代所長1名、室蘭市内の診療所1施設だけでスタートしたHCFMでしたが、レジデントやスタッフ医師の増加とともに現在では室蘭市内と北海道内のへき地にそれぞれ2施設（計4施設）の診療と教育の拠点を保有し、さらに外部研修協力施設として3施設との連携を構築するに至っています（図1）。

昨年、開設より10周年を迎えましたが、今後も日本における家庭医療実践・教育のモデルのひとつとして発展を続けられるよう、スタッフ一同努力を継続しております。

2. HCFMの展開する医療（図2）

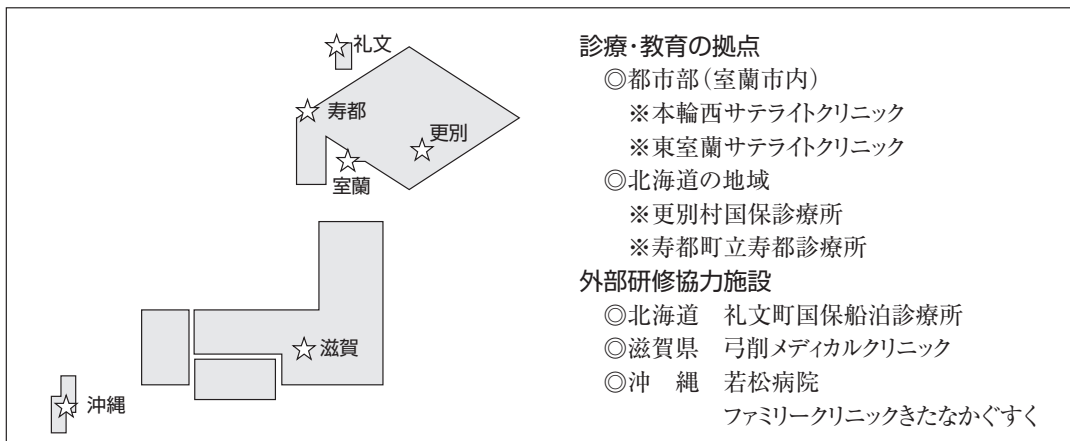
*都市における家庭医療実践のモデルとして

HCFMは室蘭市内で2つの診療所（本輪西サテライトクリニック，東室蘭サテライトクリニック）を運営しています。

室蘭市は厚生労働省より療養型病床削減・在宅診療推進のモデル地区として指定されており訪問診療のニーズが多く、平成18年に制度化された在宅療養支援診療所として2つの診療所が協力して地域の在宅医療を支えています。

近未来の都市部における家庭医療，プライマリ・ケアのモデルを目指しています。

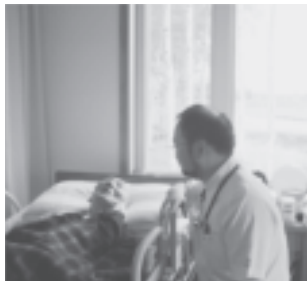
図1



施設紹介（後期研修プログラム紹介）



図2



(株)アイワード提供

*北海道の地域医療を支援する

北海道の郡部は医師の確保，都市部との医療の格差に苦しんでいます。

HCFMは北海道十勝地区の更別村，後志地区の寿都町，道北の離島・礼文町と医療業務提携を結び，自治体立診療所にHCFM所属の家庭医やその他の職員を派遣し，それぞれの地域のニーズに合わせた医療を地域の皆様とともに作っています。

それぞれの地域が単なる医師派遣のレベルを超えて家庭医療の実践と教育の現場となり，北海道の地域医療にたいする貢献の好例として注目を集めています。

3. HCFMの展開する教育

*家庭医療学専門医コース

◎歴史

HCFMの設立から1年後の1997年家庭医療学

専門医コースが設立され，1期生5名を迎えて本格的に家庭医療学専門医の養成が開始されました。

初期の2年間は日鋼記念病院の内科・小児科・産婦人科などをスーパーローテート研修しながら週に半日は本輪西サテライトクリニックで家庭医療の外来・訪問診療を学び（ハーフデイ・バック），後期の2年間はHCFM内の様々なセッティングの家庭医療の現場をローテート研修する，というものでした。

ハードな研修を乗り越え，2007年3月末までに合計22名が研修を修了，カレスアライアンスが独自に認証する専門家庭医の資格を得る予定です。

認証を受けた医師の進路は様々で，HCFM内で後進を育てる指導医として残るものも，他施設で家庭医として勤務しているものもいます。それぞれに高い評価を得て活躍中です。

そして10周年を迎えた2007年4月，HCFMの家庭医療学専門医コースは生まれ変わり，これまで積み重ねた知見を土台にさらに充実したプログラムとなります。

◎特徴あるプログラム（図3）

これまでは初期の2年間も含めた4年間で家庭医を養成していましたが，平成16年度より始まった臨床研修制度，平成19年度より始まる日本家庭医療学会の認定プログラム制度に合わせて初期2年間の研修と切り離し後期3年間のプログラムとなりました。

図3 ある研修医のローテード例

3年目	日鋼記念病院内科病棟	小児科病棟	院内選択
4年目	更別	礼文	沖縄
5年目	沖縄	室蘭	院外選択

3年目の病棟研修期間中は週に半日（または隔週に半日）、室蘭市内のクリニックにおいて外来診療・訪問診療の研修を行う（ハーフデイ・バック）
研修修了時に試験を実施。

施設紹介（後期研修プログラム紹介）

新しいプログラムにおいてもやはり最大の特徴は北海道内、全国の関連教育施設を6～8ヶ月単位でローテートし、家庭医として仕事をしながら「家庭医としていきること」を実践的に学習できることです。

都市部や郡部、離島など、多様な家庭医療の現場を経験することにより重要な価値観を身につけることができ、また各地には優秀な指導医が常駐しており、よきロールモデルと出会えることはこのコースの長所と言えます。

また、初期2年間に加えて6ヶ月間の一般内科病棟研修、3ヶ月間の小児科病棟研修が加えられました。

北海道の郡部ではニーズの高い上部消化管内視鏡の技術を習得することができるようになったことも特徴です。

◎人を診る・見る医師を育てる

～家庭医療学専門医コースの育てる家庭医とは
家庭医療学専門医コースでは

(ア) 都市部・郡部を問わず、地域の診療所や中小病院で第一線の医療を担うために必要とされる基本的能力と専門的知識を身につけた医師

(イ) 日本・北海道の家庭医療・地域医療の発展のために努力することができる医師を育てます。

プロフェッショナルリズム、倫理観、コミュニケ

ーションなどの社会人たる医師としての基礎的な能力の上に、幅広い医学的問題を扱う能力、そして患者中心・家族志向型の医療、地域包括ケアといった家庭医を特徴づける独特の技術を身につけることが目標です。

◎研修現場より

・家庭医療の現場で、段階的に責任を持ちながら
(図4)

スキーはスキー場でなければ学べないのと同じように、家庭医療もその現場でなければ学ぶことができません。

HCFMでは3年間を通じて家庭医療の現場での教育を継続することを重要視しています。

また、初期には1例1例、指導医と相談しながら診療しますが、研修医の成長に応じて徐々に責任を持つようになり、研修の最終学年時にはほぼ独立して診療を行い必要時のみ指導医からの指導をうけるようになります。

・定期的な評価とフィードバック

「自分自身を振り返り、自身の成長を促すことができる」ことは家庭医として生きていく上で非常に重要な能力です。

HCFMでは研修医と指導医が定期的に面談を行い、家庭医としての成長とともに振り返りながら研修をすすめていくと同時に、「振り返ること自身で自身の成長を促す」という重要な能力を学んでいきます。

図4

(株)アイワード提供



図5

(株)アイワード提供



施設紹介（後期研修プログラム紹介）

・ネットワークを利用した学びの場（図5）

HCFMではインターネットを利用したTV会議システムを用いて毎月1回、研修医の学習会（Family Medicine Resident Forum; FamReF）を開催しています。

また、北海道内の他の家庭医療研修プログラム、「ニボポ」との交流学習会なども実施しています。

*研修医がプロジェクトを担当する

HCFMでは研修医は様々なプロジェクトを担当します。

研修施設の診療改善のためのプロジェクト（例：講演会の企画と実施）、指導医が学会などで開催するワークショップの企画と実施など…

こういったプロジェクトを担当することにより、様々な人と協力することや組織の一員として働くことの重要性を学んでいます。

◎評価の重要性

家庭医療学専門医コースを修了する医師が家庭医として一定の段階に到達していることを利用者である国民の皆様を示すことは非常に重要です。

家庭医療学専門医コースでは研修目標に応じて様々な評価法を取り入れ、指導医との定期的な評価とフィードバックにおいて研修目標達成にむけて成長を促し、研修修了時には試験を行い専門家庭医であることを施設内で認証しています。

◎家庭医療学専門医コースの現場を知りたい方へ ～エクスターンシップ

HCFMは家庭医療に興味のある学生、研修医を対象に「エクスターンシップ」と呼ばれる参加型の見学研修を用意しています。

エクスターンシップは従来の施設見学と異なり、家庭医療学に関するレクチャー、家庭医の診療の模擬研修（外来、訪問診療）、研修医への教育場面に同席するなど実際に現場を肌で感じて頂けることが特徴です。

家庭医療の指導医やレジデントと自分の将来や悩みについても相談できる、よい機会になります。

詳細なプログラムや申込みは下記アドレスを参照ください。

<http://www.nikko-kinen.or.jp/f25/HCFM100.htm>

*研修医の採用について

HCFMの家庭医療学専門医コースはこれまで初期2年間からスタートしていたため、外部で初期研修を終えた医師を募集することはありませんでした。

平成19年度より始まる新しいプログラムにより、外部で初期研修を終えた医師でもこの研修プログラムに参加することができるようになりました。

採用試験についてはHCFMのHP

<http://www.nikko-kinen.or.jp/f25/HCFM100.htm>
に随時公開されます。

*フェローシップ

HCFMでは平成19年度より家庭医療後期研修を終えた医師を対象にフェローシップを提供します。

2年の採用期間、HCFM内で指導医とともに診療と教育の中心を担いながら、独自に提供されるFaculty Development (FD) コースを受けることができます。

2年間で施設のマネジメントや指導医としての素養を身につけることを目標とします。

平成19年度は1名を採用しています。

問い合わせ

〒051-8501 北海道室蘭市新富町1-5-13

医療法人 社団 カレス アライアンス・北海道家庭医療学センター

事務長 山田康弘

電話：0143-55-1212 FAX：0143-55-3000

E-mail：hcfm@nikko-kinen.or.jp